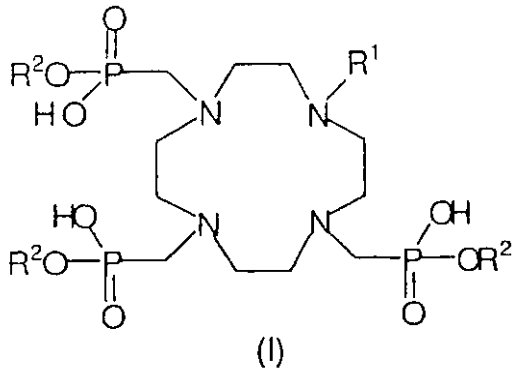
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-507005(P2005-507005A)
【公表日】平成17年3月10日(2005.3.10)
【年通号数】公開・登録公報2005-010
【出願番号】特願2003-538170(P2003-538170)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｆ　9/6524　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　1/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　49/00　(2006.01)
Ｃ０７Ｆ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｆ　9/6524
Ａ６１Ｂ　1/00　３００Ｄ
Ａ６１Ｋ　49/00　Ａ
Ｃ０７Ｆ　5/00　Ｄ

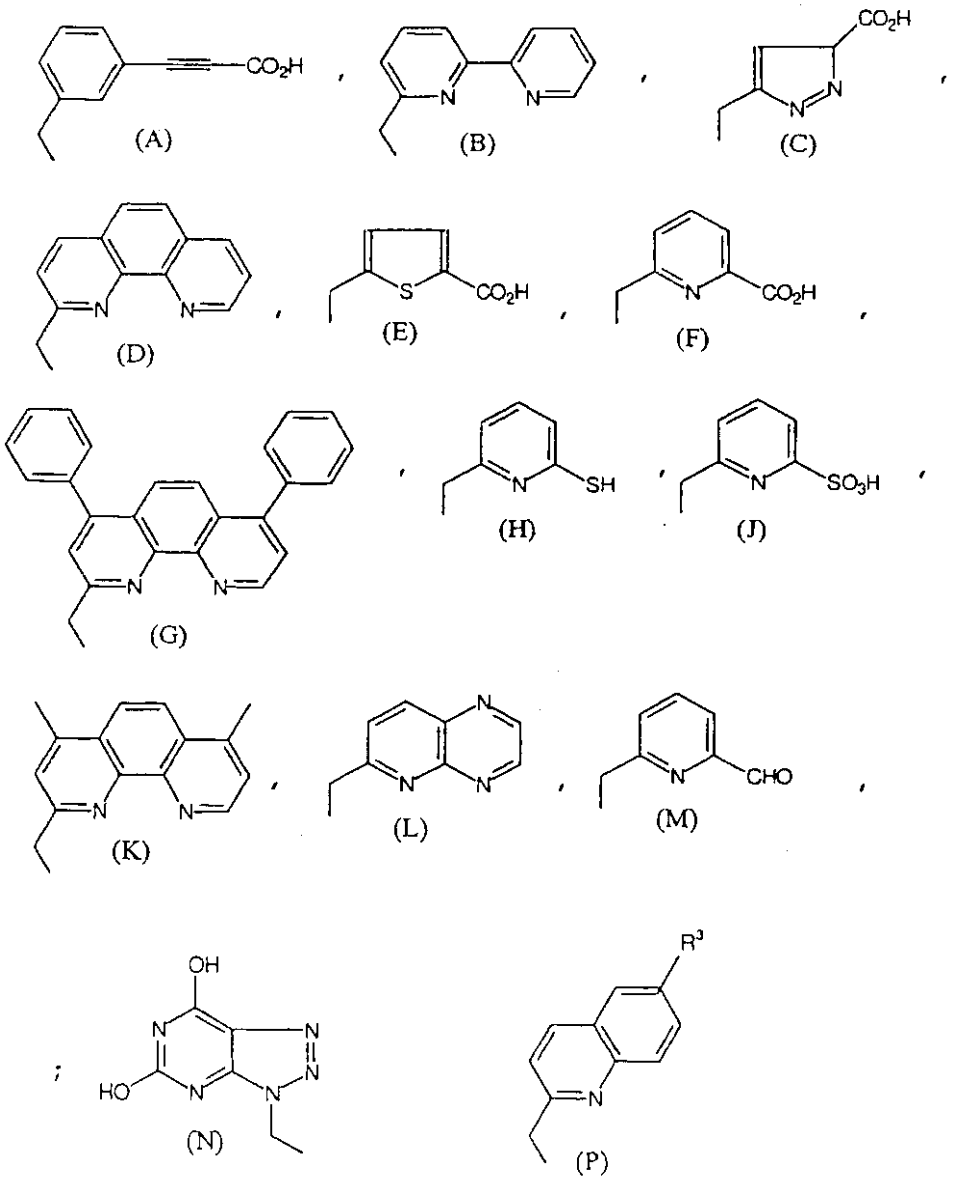
【手続補正書】
【提出日】平成17年10月21日(2005.10.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
式：
【化１】



(I)

（式中、Ｒ[1]は

【化２】



であり；

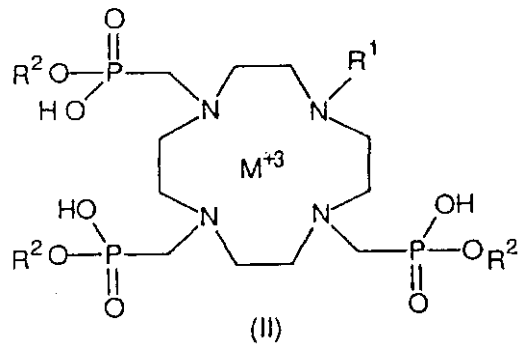
R^2はメチル、エチル、プロピル、ブチル又はＨであり；

R^3はＦ、C_1～C_4アルキル、Ｏ（C_1～C_4アルキル）又はＣｌである）のテトラアザ大環状化合物又はそれらの医薬的に許容し得る塩。

【請求項２】

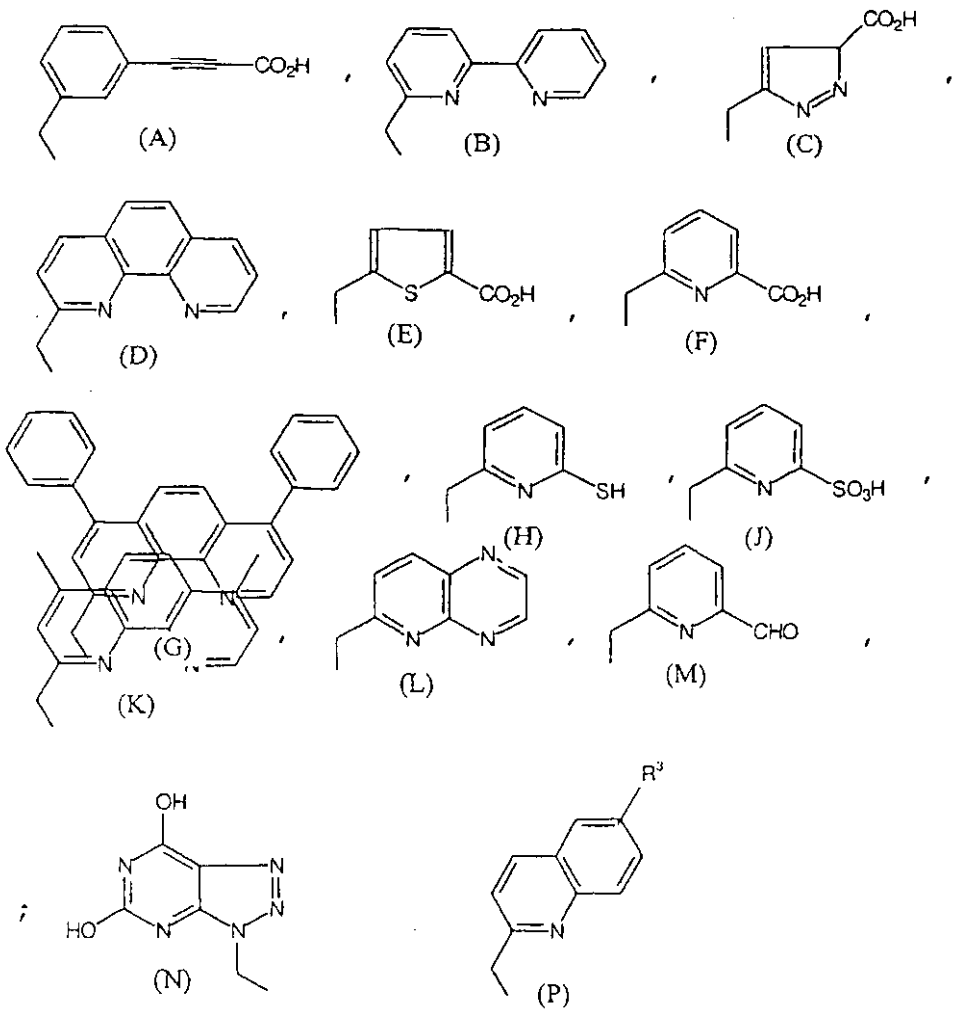
式：

【化３】



(II)

（式中、Ｒ^{1}は、
【化４】



(A) (B) (C) (D) (E) (F) (G) (H) (J) (K) (L) (M) (N) (P)

であり；
Ｒ^{2}はメチル、エチル、プロピル、ブチル又はＨであり；
Ｒ^{3}はＦ、Ｃ$_{1}$～Ｃ$_{4}$アルキル、Ｏ（Ｃ$_{1}$～Ｃ$_{4}$アルキル）又はＣｌであり；

Ｍは、テルビウム（Ｔｂ）、ユウロピウム（Ｅｕ）、ランタニド（Ｌａ）又はジスプロシウム（Ｄｙ）の金属イオンである）のテトラアザ大環状キレート化合物又はそれらの医薬的に許容し得る塩。

【請求項３】

テルビウム１－［２－（６－メトキシ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項４】

ユウロピウム１－［２－（６－メトキシ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項５】

ユウロピウム１－［２－（６－クロロ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項６】

テルビウム１－［２－（６－クロロ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項７】

ユウロピウム１－［２－（６－フルオロ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項８】

テルビウム１－［２－（６－フルオロ）メチレンキノリニル］－４，７，１０－トリ（メチレンホスホン酸）－１，４，７，１０－テトラアザシクロドデカン。

【請求項９】

請求項１の化合物を医薬的に許容し得る担体と共に含んでなる医薬製剤。

【請求項１０】

投与用の液剤中のキレート剤の量が０．１～５ｍＭである請求項９に記載の製剤。

【請求項１１】

有効量の請求項９の製剤をヒト以外の動物に投与し、画像を得ることを含んでなる動物の疾患状態の診断方法。

【請求項１２】

製剤化されたキレートを注射液剤又は洗浄液として投与する請求項１１に記載の方法。

【請求項１３】

局所投与するキレートの投与量が０．１～５ｍＭの溶液の形態である請求項１１に記載の方法。

【請求項１４】

有効量の請求項９の製剤を動物に投与して、画像を得ることを含んでなる動物の画像化方法。

【請求項１５】

内視鏡的螢光イメージングマイクロスコープを用いて前記画像を得る請求項１２に記載の方法。

【請求項１６】

紫外線光源を用いて前記画像を得る請求項１４又は１５に記載の方法。

【請求項１７】

インビボで画像化された組織において、製剤中の請求項１に記載の錯体を定量する請求項１３又は１４に記載の方法。

【請求項１８】

疾病の状態が口腔癌又は食道癌である請求項１１に記載の方法。

【請求項１９】

媒体上にサンプルを配置し、有効量の請求項１の化合物を添加し、その後に結果を読み取ることを含んでなる組織サンプルのインビトロ・イムノアッセイ又はＤＮＡハイブリッド形成の方法。

【請求項２０】
化合物を水溶液中の金属イオンハロゲン化物と反応させることを含んでなる請求項２に記載された式（ＩＩ）の錯体の調製方法。
【請求項２１】
疾病の状態に関して請求項２のキレートの検出に使用する紫外線波長が３００～３４０ｎｍである請求項１１に記載の方法。